

報道関係者各位

— 川崎市市民ミュージアム 2019年1月～4月の企画展 —



～開館30周年記念～

当館所蔵の博物・美術コレクションから約240点を公開！

2019年1月26日(土)～4月14日(日) **観覧無料**

休館日:月曜日(祝日の場合は開館し、翌火曜休)、3月22日(金)

※会期中、一部作品の展示替えを行います。

前期:1月26日(土)～3月3日(日)／後期:3月5日(火)～4月14日(日)

【メインビジュアル】《浅草の十二階が真中からぶち折れる刹那》1923(大正12)年9月15日発行 報知社出版部

開館 30 周年記念 当館所蔵の博物・美術コレクションから約 240 点を公開！

1988 年、川崎市市民ミュージアムは「都市と人間」を基本コンセプトとする博物館・美術館の複合文化施設として誕生しました。都市・川崎の歩みを示す歴史資料をはじめ、時代性や社会動向を敏感に反映する大衆芸術、複製技術芸術(漫画・写真・版画・ポスター・映像など)を、日本で初めて総合的にコレクションする館として、開館当時には国内外から大きな注目を集めました。現在もその収蔵品数は全国最大級となる約 26 万点を誇ります。

都市とは、そこに生きる人々の記憶が共有される場です。その記憶は人災や自然災害などの大きな変化によって創り出され、モニュメント化されて、その場に記録されていきます。本展では、当館の設立コンセプトである「都市と人間」のテーマから、《都市×モニュメント×カストロフス》をキーワードとして、川崎・パリ・東京の都市像に焦点を当てます。地層のように折り重なる記憶が綾なす三つの都市の姿を、市民ミュージアムの多様な収蔵品からご紹介します。

展示構成

◆アートギャラリー①：川崎×工場×開発

明治時代より工場用地として開発が進んだ川崎は、現在に至るまで工業都市として発展を遂げてきました。しかし、その一方で 1950 年代には工場排水や大気汚染による公害問題が発生しています。

◆アートギャラリー②：パリ×建築×コミュニケーション

フランスの首都・パリを形作るものとして、街中にたたずむ建造物が挙げられます。それらは都市開発や 1871 年に発生したパリ・コミューンによって破壊され、人々が抱く都市像もまた移り変わっていきました。

◆アートギャラリー③：東京×娯楽×関東大震災

江戸の面影を残しつつ娯楽の場として発展していく明治の東京。さまざまな名所図や開化絵に描かれるその景観は、1923(大正 12)年に発生した関東大震災によって一変します。

< 出品作品 >



[左] 《横浜精糖株式会社》コロタイプ印刷、明治時代【通期展示】

[中央] ウジェーヌ・アジェ《オー通り レイヌアル通りとパッシー河岸の間》鶏卵紙、1901 年【後期展示】

[右] 《猛火ニ包圍サレタル浅草観世音之真景》石版・紙、1923(大正 12)年 10 月 15 日【通期展示】

関連イベント

○ 学芸員による展示解説

2月16日(土)・2月23日(土)・3月23日(土)・4月6日(土)

各日 13時～(30分程度)

2F アートギャラリー／当日直接会場へ

○ 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

3月3日(日)13時～15時

2F アートギャラリー／参加無料／定員14名／要事前申込(応募多数の場合は抽選)

2月3日(日)より当館HPにて受付開始／2月20日(水)締切



《東京浅草凌雲閣真景》
石版多色、1890(明治23)年
【通期展示】



[左] アシーユ・キネ《パリの眺望》鶏卵紙、1870年代【前期展示】
[中央] 楊洲周延《かすり揃ひ開花の散髪》木版多色、1878(明治11)年【前期展示】

連携上映

○ 「都市と人間」コレクション展連携 特集上映「ソヴィエト映画特集」

名匠アンドレイ・タルコフスキーと、彼に師事したコンスタンティン・ロプシャンスキーのソヴィエト時代の作品をとりあげ、地球の近未来都市のシーンに赤坂見附付近の立体高速道路の景色が映される『惑星ソラリス』、壊滅的に破壊された都市が印象的な『ミュージアム・ヴィジター』をはじめ、『スターカー』『死者からの手紙』など、計4作品を35mmフィルムで上映します。

2月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日) 各日 10:30～／14:00～

※作品時間の都合により一部 14:00～ではなく 13:30～の上映日があります。

1F 映像ホール／定員270名／全自由席／入替制

1プログラムにつき一般600円、65歳以上・大高生500円、小中学生400円

当日1F 総合案内で10:00～15:00までチケット販売(12:00～13:00は販売休止)

★ 2月23日(土)『死者からの手紙』上映後、ソヴィエト映画講座を開講！

(講師:井上徹／エイゼンシュテイン・シネクラブ代表)



<上映作品 Pick up>



★『惑星ソラリス』

1972年/カラー/シネマスコップ/35mm/165分

監督: アンドレイ・タルコフスキー / 出演: ナタリア・ボンダルチュク、ユーリー・ヤルヴェト

【作品介绍】海に囲まれた惑星ソラリスの探査で混乱をきたしているステーションに、心理学者クリス・ケルヴィンは派遣される。彼はそこで自殺したはずの妻に出会う……。ソラリスの海は、人間の深層心理を実体化する知的生命体だったのだ。スタニスワフ・レムの小説に着想を得てタルコフスキーが独自に展開させた SF 映画史に輝く金字塔。

★『ミュージアム・ヴィジター』

1989年/カラー/スタンダード/35mm/135分

監督: コンスタンティン・ロプシャンスキー

出演者: ヴィクトル・ミハイロフ、ヴェーラ・マヨラヴァ、ヴァジム・ロバノフ

【作品介绍】核戦争で破壊され、廃墟と化した地を一人の男が訪れる。彼は海底に深く沈んでしまい干潮時のみに現れ、壊滅前の文明が一部残っているという〈ミュージアム〉を求めてやってきたのだ。『死者からの手紙』に続く、ロプシャンスキー監督長編第2作。反ユートピアの世界が黒と赤の色調、電子音や轟音などのノイズと共に圧倒的な世界観で展開される。



<川崎市市民ミュージアム 映像ホール>



開館当初からコレクションしている戦後独立プロダクションの作品や海外の作品などの所蔵品を活用しながら、フィルム上映を定期的を実施。日本の美術館・博物館では数少ない映画部門があるフィルム・アーカイヴ施設として、映画を収集・保存・上映しています。また、4K 対応のデジタルシネマプロジェクターを導入。映画ファンから地元の方まで、心に残る劇場体験をお届けします。

※本プレスリリース内の画像はすべてご提供可能です。お気軽にお問い合わせください。

※「都市と人間」コレクション展に関する画像をご掲載の際は、各作品のキャプションとあわせて「川崎市市民ミュージアム所蔵」を明記いただけますよう、よろしくお願いいたします。

<川崎市市民ミュージアム 施設概要>



多彩な表情を持つ都市、川崎。川崎市市民ミュージアムは、「都市と人間」という基本テーマを掲げて1988年11月に開館した博物館と美術館の複合文化施設です。

■住所: 〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)

■開館時間: 9:30~17:00(入場は閉館の30分前まで)

■休館日: 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土日の場合は開館)、年末年始

■観覧料: 企画展、アートギャラリーは展覧会により異なる。博物館展示室は無料。

※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は、観覧無料

※20名以上の団体でご利用いただく場合、割引有

■アクセス: JR・東急「武蔵小杉」駅北口1番乗り場からバスで約10分
「市民ミュージアム前」下車すぐ

【プレスリリースのお問い合わせ】川崎市市民ミュージアム 営業・広報担当 坂下

TEL: 044-754-4500(休館日を除く9:30~17:00) FAX: 044-754-4533

MAIL: pr_kcm@kawasaki-museum.com

HP: <http://www.kawasaki-museum.jp/> *指定管理者: アクティオ・東急コミュニティー共同事業体